

5.3 基底と次元 | 第 5 章 ベクトル空間

樋口さぶろお hig3.net

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L29(2022-07-20 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2022-07-20 Wed 07:32 JST hig"

今日の目標

- 1 次独立/1 次従属 をイメージできる
- ベクトルの組が基底かどうか判定できる



L28-Q1

Quiz 解答:1 次関係

- ① 係数行列 $A = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2 \ \mathbf{v}_3]$, 1 次結合の係数 $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$ とすると, 1 次関係式は, 同次連立 1 次方程式 $A\mathbf{a} = \mathbf{0}$ になる.

行基本変形で A を簡約階段化すると, $A \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$ よって, 解は $\mathbf{a} = \mathbf{0}$. 自明な 1 次関係式 $0\mathbf{v}_1 + 0\mathbf{v}_2 + 0\mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ のみが成立する.

- ② 係数行列 $A = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2 \ \mathbf{v}_3]$, 1 次結合の係数 $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$ とすると, 1 次関係式は, 同次連立 1 次方程式 $A\mathbf{a} = \mathbf{0}$ になる.

行基本変形で A を簡約階段化すると, $A \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$ よって, 解は $a_1 = -3c, a_2 = -c, a_3 = c$ ($c \in \mathbb{R}$, 任意定数).

非自明な 1 次関係式 $-3c\mathbf{v}_1 - c\mathbf{v}_2 + c\mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ ($c \in \mathbb{R}$) がある.

(定数 ($\neq 0$) 倍したものがまた非自明な 1 次関係式になるのは明らかなので, (きれいになるたとえば $c = -1$ を代入した式だけを見せて)

「非自明な 1 次関係式 $3\mathbf{v}_1 + \mathbf{v}_2 - \mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ がある」とだけ言うことが多い)

L28-Q2

Quiz 解答: 1 次独立・1 次従属

① $\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{v}_3 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ とする.

$a_1\mathbf{v}_1 + a_2\mathbf{v}_2 + a_3\mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ ($a_i \in \mathbb{R}$) とおくと, 係数行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 5 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$,

$\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$ に対して, 同次連立 1 次方程式 $A\mathbf{a} = \mathbf{0}$ が成立する. 行基

本変形で A を簡約階段化すると, $A \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$.

よって, 解は $\mathbf{a} = \mathbf{0}$. 自明な 1 次関係式 $0\mathbf{v}_1 + 0\mathbf{v}_2 + 0\mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ のみが成立するので, $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\}$ は 1 次独立である.

$$\textcircled{2} \quad \mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{bmatrix} 5 \\ 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} \text{ とする.}$$

$$a_1 \mathbf{v}_1 + a_2 \mathbf{v}_2 + a_3 \mathbf{v}_3 = \mathbf{0} \quad (a_i \in \mathbb{R}) \text{ とおくと, 係数行列 } A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 5 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \\ 0 & 0 & 3 \end{bmatrix},$$

$$\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix} \text{ に対して, 同次連立 1 次方程式 } A\mathbf{a} = \mathbf{0} \text{ が成立する. 行基}$$

$$\text{本変形で } A \text{ を簡約階段化すると, } A \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \text{ よって, 解は}$$

$$a_1 = -3c, a_2 = -c, a_3 = c \quad (c \in \mathbb{R}, \text{任意定数}).$$

非自明な 1 次関係式 $3\mathbf{v}_1 + \mathbf{v}_2 - \mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ があるので, $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\}$ は 1 次従属である.

L28-Q3

Quiz 解答: 1 次独立・1 次従属

- ① 自明な 1 次関係しかないので 1 次独立.
- ② 非自明な 1 次関係 $2\mathbf{v}_1 + 3\mathbf{v}_2 - \mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ があるので 1 次従属.

ここまで来たよ

28 5.2 1 次独立 1 次従属|第 5 章 ベクトル空間

29 5.3 基底と次元|第 5 章 ベクトル空間

- 2. 1 次独立と 1 次従属
- 3. 基底と次元
- Wolfram Alpha での行列計算

◆ 1 次独立性と 1 次結合

定理 (5-2-3 1 次独立性と 1 次結合 加藤 線形代数 p.160)

$$V = \mathbb{R}^m,$$

V のベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ が 1 次独立,

ならば

「 \mathbf{w} が $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ の 1 次結合で書ける, ならば, その書き方は一意的」

「書き方は一意的」 \Leftrightarrow 「書く書き方は 1 通り」 \Leftrightarrow 係数 a_i が 1 通りに定まる.

証明

「一意的」の証明方針: 2 つの書き方を変数において, 実は等しくなる, という.

定理 (5-2-3 の逆 加藤 線形代数 練習 10(p.160))

$$V = \mathbb{R}^m,$$

V のベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ が 1 次独立,

「 \mathbf{w} が $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ の 1 次結合で書ける, ならば その書き方は一意的」
ならば,

$\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ は 1 次独立.

1 次独立の特徴づけ

ベクトルの組が 1 次独立であるとは, 別のベクトルが組の 1 次結合で **書けるなら一意的**, であること.

定理 (5-2-4 1 次結合による表現可能性 加藤 線形代数 p.161)

$$V = \mathbb{R}^m$$

V のベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ が 1 次独立

$\mathbf{w} \in V$ のとき,

- ① $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n, \mathbf{w}\}$ が 1 次従属 $\Rightarrow \mathbf{w}$ は $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ の 1 次結合で書ける
- ② 対偶「1 次結合で書けないベクトルを追加しても, 組は 1 次独立のまま」

証明

L29-Q1

Quiz(1 次独立・1 次従属)

次の \mathbb{R}^2 のベクトルの組は 1 次独立かどうか、答えよう.

- ① $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\}$
- ② $\left\{ \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\}$
- ③ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \right\}$
- ④ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} -2 \\ -4 \end{bmatrix} \right\}$
- ⑤ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix} \right\}$
- ⑥ $\left\{ \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} \right\}$

加藤 線形代数 定理 2-2(p.157), 系 2-2(p.157)

mobius K5.2.70

ここまで来たよ

28 5.2 1 次独立 1 次従属|第 5 章 ベクトル空間

29 5.3 基底と次元|第 5 章 ベクトル空間

- 2. 1 次独立と 1 次従属
- 3. 基底と次元
- Wolfram Alpha での行列計算

◆基底

定義 (5-3-1 基底 加藤 線形代数 p.162)

$W \subset V = \mathbb{R}^m$ 部分空間, ベクトル空間,
 $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \in W$, のとき,

$\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ は W の基底 (basis, 複数形 bases)

\Leftrightarrow

(B1) $W = \langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \rangle$

(B2) $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ は 1 次独立

加藤 線形代数 は W でなく一般のベクトル空間 V としているが, ここでは \mathbb{R}^m の部分空間に限定.

まずは $W = V = \mathbb{R}^m$ をイメージしよう.

加藤 線形代数 定義 2-1(p.153) (B1) \Leftrightarrow 「 $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ は W を生成する」

\Leftrightarrow 「任意の $\mathbf{w} \in W$ は $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ の 1 次結合で書ける」

例 (5-1 加藤 線形代数 p.162)

$(W = V = \mathbb{R}^n)$

基本ベクトルすべての組 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\} = \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}, \dots, \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ \vdots \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$ は

\mathbb{R}^n の基底 (\mathbb{R}^n の標準基底とよばれる)

(B1)

(B2)

命題 (加藤 線形代数 なし)

$W = V = \mathbb{R}^m$ のとき,

ベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ が W を生成する $\Leftrightarrow \text{rank}[\mathbf{v}_1 \ \dots \ \mathbf{v}_n] = m$.

証明

生成するとは, 任意の $\mathbf{w} \in W$ に対して $[\mathbf{v}_1 \ \dots \ \mathbf{v}_n]\mathbf{a} = \mathbf{w}$ が解を持つこと.
加藤 線形代数系 3-1(p.67) などから.

例標準基底や, それにベクトルを追加したものは, \mathbb{R}^m を生成する.

命題 (加藤 線形代数 なし)

$$(W = V = \mathbb{R}^n)$$

\mathbb{R}^n の 1 次独立なベクトルの組で, n 個からなるもの $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ は \mathbb{R}^n の基底.

系 (加藤 線形代数 なし)

$$(W = V = \mathbb{R}^n)$$

\mathbb{R}^n の n 個からなるベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ について,
 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ が \mathbb{R}^n の基底 $\Leftrightarrow \det[\mathbf{v}_1 \cdots \mathbf{v}_n] \neq 0$.

L29-Q2

Quiz(基底)

次の \mathbb{R}^2 のベクトルの組は \mathbb{R}^2 を生成するか、 \mathbb{R}^2 の基底か、答えよう.

- ① $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\}$
- ② $\left\{ \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\}$
- ③ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \right\}$
- ④ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} -2 \\ -4 \end{bmatrix} \right\}$
- ⑤ $\left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix} \right\}$
- ⑥ $\left\{ \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} \right\}$

mobius K5.3.10

1 次独立 対 生成 対 基底

\mathbb{R}^m のベクトルの組 $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$.

$$A = [\mathbf{v}_1 \ \cdots \ \mathbf{v}_n].$$

| | 1 次独立 | \mathbb{R}^m の基底 | \mathbb{R}^m を生成 |
|--------------|---|---|---|
| 定義 | 加藤 線形代数 定義 2-2(p.155) | 加藤 線形代数 定義 3-1(p.162) | 加藤 線形代数 定義 2-1(p.153) |
| 判定条件 | $\text{rank } A = n$ | $\text{rank } A = n = m$ | $\text{rank } A = m$ |
| 特徴付け | ベクトル \mathbf{w} が組の 1 次結合で書ける なら一意的 | 任意のベクトル $\mathbf{w} \in \mathbb{R}^m$ が組の 1 次結合で一意的に 書ける | 任意のベクトル $\mathbf{w} \in \mathbb{R}^m$ が組の 1 次結合で書ける |
| 成立に有利 (必要条件) | n 小 | $n = m$ | n 大 |

ここまで来たよ

28 5.2 1 次独立 1 次従属|第 5 章 ベクトル空間

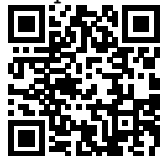
29 5.3 基底と次元|第 5 章 ベクトル空間

- 2. 1 次独立と 1 次従属
- 3. 基底と次元
- Wolfram Alpha での行列計算

Wolfram Alpha での行列の計算 I

<https://www.wolframalpha.com/examples/Matrices.html>

<https://www.wolframalpha.com>



行列

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

$$\begin{aligned} & \{ \{ 1, 2 \}, \{ 3, 4 \} \} \\ & \{ 5, 6 \} \end{aligned}$$

Wolfram Alpha では変数代入できない (電卓的) ので毎回入力してください。

行列と行列, 行列とベクトルの積はピリオド

$$\begin{aligned} & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 & 6 \\ 7 & 8 \end{bmatrix} \\ & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \{ \{ 1, 2 \}, \{ 3, 4 \} \} \cdot \{ \{ 5, 6 \}, \{ 7, 8 \} \} \\ & \{ \{ 1, 2 \}, \{ 3, 4 \} \} \cdot \{ 5, 6 \} \end{aligned}$$

Wolfram Alpha での行列の計算 II

行列のべき乗, 逆行列, 行列式

$$\begin{aligned} & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}^5 \\ & \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}^{-1} \\ & \text{rank} \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \\ & \det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

```

{{1,2},{3,4}}^5
Inverse[{{1,2},{3,4}}]
Rank[{{1,2},{3,4}}]
Det[{{1,2},{3,4}}]
  
```

行簡約階段形 `ReducedRowEchelonForm`

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$$

```

RREF[{{1,2},{2,4}}]
  
```